

2026年6月18日

岐阜県知事 江崎 禎英 様

長良川の環境改善を求める要請書

よみがえれ長良川実行委員会 共同代表 粕谷 志郎
亀井 浩次

私たちは、長良川の環境改善の実現をめざし、長良川河口堰の開門調査や木曾川水系連絡導水路事業の中止を求める市民団体・グループです。

河口堰運用 30 年を迎えた昨年、私たちは建設にかかわった人、長良川の環境を調査・研究する人、長良川の環境改善を目的に活動する人など様々な立場の人が集う多くのイベントに取り組みました。長良川の環境が大きく変化する中、岐阜県においても「長良川の環境変化の調査・研究」を推進するとともに、世界農業遺産「清流長良川の鮎」を守り育てるために汽水域の回復をめざし、関係者との「対話の場」の設置が求められています。

事業「継続」が決定された木曾川水系連絡導水路事業は、現在環境レポート（検討項目・手法編）案が出され質問・意見の集約作業が進められているところです。そうした中、貴県が県民の疑問・意見の集約に努力されていることに敬意を表します。引き続き事業者へ提出された「意見・疑問」を県民に明らかにし、事業者からの回答について広く県民が議論できるよう努力してください。

本事業について、県民は事業の内容・目的がまったく理解できていません。昨年末に開催された事業者の説明会でも、参加者の質問に何ら答えることがなく、むしろ疑問と不安が大きくなるばかりです。このような下では、環境レポートの議論は無理です。

一方で現場付近では、地質調査や環境調査の作業が進められ、地元住民は不安を深めています。県として事業者に対し、県民に開かれた「事業説明会」の開催を求めてください。また、環境レポート作成作業状況がいつでも県民にわかるよう、県民に開かれた「環境検討会」となるよう事業者に求めてください。

まだ着工もされていない段階で、すでに当初事業費の 2.55 倍になった本事業。今あらたに起きている先が見通せない世界的物価高騰に直面し、本当に遂行されなければならない事業なのか改めて問われるべきです。

長良川の美濃市横越地区の流域には、特別天然記念物のオオサンショウウオ、天然記念物のネコギギ、絶滅危惧種のウシモツゴなどの貴重な生物が密に生息しています。環境悪化の危惧から河川工事事務所が設置した「河川環境の調査検討会」でも、事業の見直しの意見も出されたと報道されています。

長良川の治水対策は、霞堤の活用などにより、できる限り環境に負荷がかからない方法をとってください。河道内に「遊水地」という名で構造物を建設することはやめ、県民が守り伝える先人の知恵『伝統的防災施設』（岐阜県パンフレット）を基本にした施策を進めてください。

以上、私たちの要請趣旨をご理解いただき、下記の事項についてお答えください。

(要請事項)

1. 長良川の環境変化の調査・研究の推進と流域の視野で環境改善、汽水域回復をめざす関係者との「対話の場の設置」を求めます。
2. 木曾川水系連絡導水路事業について、事業者は「環境レポート」作成作業を進めていますが、未だに県民は事業の目的と内容の説明が理解できません。岐阜県が事業者に対し「事業の説明の場」が設けられるよう率先して働きかけてください。
3. 横越「遊水地」建設は中止して環境保全を推進し、霞堤などを活用した治水対策を進めてください。